発電のエネルギーのもとをたどると太陽

いろいろな発電のエネルギーは、もとをたどるとどこから来ているのか

もとをたどる →

発電の方法	電気になる前の資源	太陽から資源までの道すじ
火力発電	化学エネルギー 化石燃料（石油・石炭・天然ガス）	**植物の光合成** 光のエネルギーを、養分（化学エネルギー）としてたくわえる 大昔の生物の体：長い年月をかけて変化し、化石燃料になる ← 太陽の光
バイオマス発電	化学エネルギー 木くず・ふんなど（今の生物）	
水力発電	位置エネルギー 高い所にためた水（ダム）	太陽の熱で海などの水が蒸発し、雲になって雨や雪として高い所に降る ← 太陽の熱
風力発電	運動エネルギー 風（動いている空気）	太陽の熱で地面や海があたたまる。あたたまり方の違いで空気が動く ← 太陽の熱
太陽光発電	光エネルギー 太陽の光	太陽の光をそのまま使う ← 太陽の光



太陽にさかのぼらない発電

原子力発電	核エネルギー	ウランなど（核燃料）
地熱発電	熱エネルギー	地球の内部の熱（マグマなど）

たどって分かること

多くの発電のエネルギーは、もとをたどると太陽から来ている。

化石燃料：大昔の太陽のエネルギーが、長い年月をかけてたくわえられたもの。使うとなくなる（限りがある）。

水・風・光・今の生物：太陽から毎日とどくエネルギーを使うので、くり返し使える（再生可能エネルギー）。

※ 模式図。矢印はエネルギーの流れ（太陽から発電へ）。発電所の中での変換（熱→運動→電気など）は省いた。